

## 葉いもちの発生状況を確認し、穂いもち防除を徹底

～県北部で葉いもち発生ほ場が多い、穂いもちに注意～

### 1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

- 1) 7月5半旬の巡回調査(80地点)における葉いもちの発病株率は1.8%(平成2.5%)で平成並、同地点率は17.5%(平成13.5%)でやや高かった。穂いもちの主な伝染源となる上位2葉の葉いもちの発病株率は0.3%(平成0.2%)とやや高く、同地点率は6.3%(平成2.8%)で高かった。
- 2) 地域別では、県北部の発病株率が5.9%(平成2.3%)、同地点率は47.8%(平成16.5%)でいずれも高かった。上位2葉の発病株率は0.9%(平成0.2%)、同地点率は17.4%(平成3.4%)でいずれも高かった(表-1、図-1、2)。
- 3) 作況ニュース第6号によると、水稻の生育はやや早く、気温が平成より2℃高く経過した場合は、出穂期が県北部と県中央部で7月31日頃、県南部で7月29日頃と予測されている。
- 4) 7月24日に仙台管区気象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い、降水量はほぼ平成並と予報されている。

以上のことから、葉いもちが発生しているほ場では、今後、穂への感染が懸念されるので、次の防除対策を行う。特に県北部では発病株率及び発病地点率が高いため、穂いもちが多発するおそれがあるので特に注意する。

### 2. 防除対策

- 1) ほ場によって葉いもちの発病程度は大きく異なるので、水田内に入って葉いもちの発生状況をよく確認する。
- 2) 葉いもちの発生が確認されるほ場では、穂いもち防除として出穂15～7日前にコラトップ剤又はゴウケツ粒剤/サンブラス粒剤のいずれかを散布するか、出穂直前にトライフロアブル又はビーム剤と穂揃期にトライフロアブル又はラブサイド剤の茎葉散布を行う。葉いもちが多発しているほ場では、上記に加え傾穂期にもラブサイド剤による追加防除を行う。用水が確保できず湛水できない場合は、茎葉散布剤を選択して防除する。
- 3) 本田での防除薬剤の使用回数は、トライ剤は2回、ラブサイド剤及びビーム剤はそれぞれ3回以内となっているので注意する。
- 4) 本年は出穂期が早まると見込まれることから、防除時期を逸しないように注意する。

### 3. 資料

表-1 巡回調査(80地点)における葉いもちの発生状況(7月5半旬)

	葉いもち 発病株率(%)	葉いもち 発病地点率(%)	上位葉葉いもち 発病株率(%)	上位葉葉いもち 発病地点率(%)
県北部	5.9 ( 2.3)	47.8 (16.5)	0.9 ( 0.2)	17.4 (3.4)
県中央部	0.3 ( 1.4)	4.0 ( 7.6)	0 ( 0.1)	0 (1.2)
県南部	1.0 ( 3.5)	6.3 (16.4)	0.3 ( 0.2)	3.1 (2.6)
全県	1.8 ( 2.5)	17.5 (13.5)	0.3 ( 0.2)	6.3 (2.8)
概評	並	やや多	やや多	多

( )は平年値

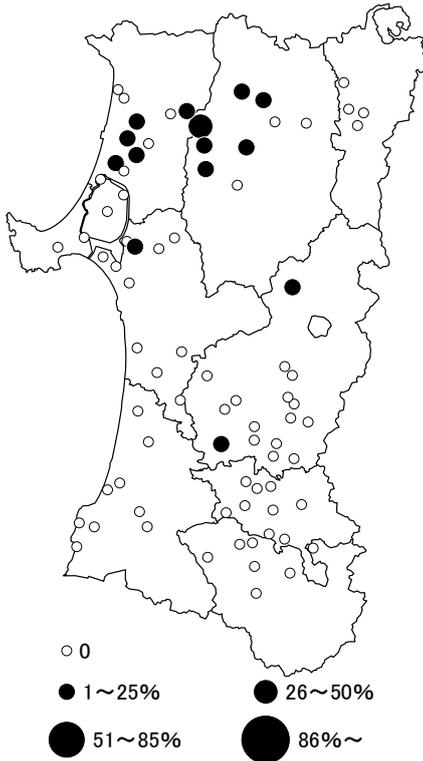


図-1 葉いもち発病株率(7月5半旬)

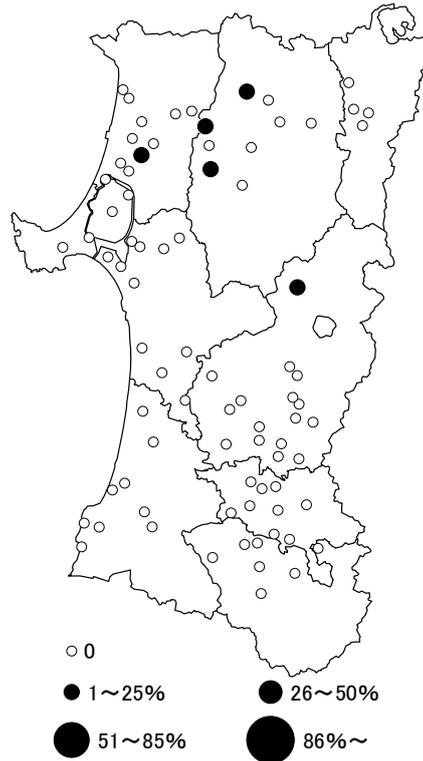


図-2 上位葉(上位2葉)葉いもち発病株率(7月5半旬)

#### 【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660  
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326  
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>